

渡 邊 一 功 教 授

学 歴

- 1963年4月 名古屋大学医学部医学科卒業
1963年4月 名古屋大学医学部附属病院にて医師実地修練（1964年3月まで）
1964年4月 名古屋大学大学院医学研究科内科系小児科学専攻博士課程入学
1968年9月 名古屋大学大学院医学研究科内科系小児科学専攻博士課程修了
医学博士（名古屋大学 医博第264号）
1968年4月 名古屋大学医学部小児科学副手（1969年11月まで）

職 歴

- 1969年12月 愛知県心身障害者コロニーこぼと学園医師（1970年3月まで）
1970年4月 愛知県心身障害者コロニー中央病院小児神経科医長（1979年3月まで）
1970年4月 名古屋大学医学部兼任講師（小児科担当）（1980年3月まで）
1973年9月 British Council 奨学生として英国ロンドン小児病院に留学（1974年8月まで）
1979年4月 愛知県心身障害者コロニー中央病院臨床第5部長（1980年3月まで）
1980年4月 名古屋大学医学部附属病院講師（1984年7月まで）
1984年8月 名古屋大学医学部医学部小児科学教授（1998年3月まで）
1998年4月 名古屋大学大学院医学研究科健康社会学専攻発育・加齢医学講座小児科学分野教授
（2002年3月まで）
2002年4月 名古屋大学名誉教授
2002年4月 愛知淑徳大学教養教育センター教授（2004年3月まで）

2004年4月 愛知淑徳大学医療福祉学部医療貢献学科教授 (2010年3月まで)
2010年4月 愛知淑徳大学健康医療科学部医療貢献学科教授 (2014年3月まで)
2014年3月 愛知淑徳大学定年退職

学会及び社会活動

1981年6月 日本小児神経学会理事 (2004年6月まで)
1981年6月 Brain and Development 編集委員 (2004年6月まで)
1984年10月 日本てんかん学会理事 (2004年9月まで)
1984年10月 日本臨床神経生理学会評議員 (2001年12月まで)
1985年4月 日本小児科学会理事 (1987年4月まで)
1985年7月 日本新生児学会評議員 (2001年12月まで)
1985年11月 日本未熟児新生児学会評議員 (2001年12月まで)
1987年4月 日本小児科学会評議員 (1999年4月まで)
1990年11月 国際小児神経学会理事 (2002年9月まで)
1991年10月 第26回日本てんかん学会会長 (1992年10月まで)
1996年7月 第39回日本小児神経学会会長 (1997年6月まで)
1998年9月 *Neuropediatrics* アジア地区編集長 (2005年3月まで)
2001年4月 第105回日本小児科学会学術集会会頭 (2002年4月まで)

主な著書・論文

主な著書 (最近のもの)

1. Partial epilepsies in infancy. *Pediatric epilepsy. Diagnosis and therapy*. Demos. 2008
2. Benign familial and nonfamilial seizures. (共著) *Epilepsy. A comprehensive Textbook*. LWW. 2008
3. Non-idiopathic localization-related epilepsies in infants and young children. (共著) *Epileptic syndromes in infancy, childhood and adolescence*. John Libbey. 2005

主な論文 (最近のもの)

1. A new electroencephalogram classification with reduced recording time in asphyxiated term infants. *Brain Dev*. 2013 Jul 5. 2013
2. Amplitude spectral analyses of disorganized patterns on electroencephalograms in preterm infants. *Brain Dev*. 35(1) 38-44. 2013
3. EEG for predicting early neurodevelopment in preterm infants: an observational cohort study. *Pediatrics* 130(4) 891-7. 2012
4. Transient and mild reduction of consciousness during febrile illness in children. *Neuropediatrics* 42(5):183-7. 2011
5. Evaluation of brain maturation in pre-term infants using conventional and amplitude-integrated electroencephalograms. *Clin. Neurophysiol*. 122(10) 1967-72. 2011

6. Prolonged EEG depression in term and near-term infants with hypoxic ischemic encephalopathy and later development of West syndrome. *Epilepsia* 51(12) 2392-6. 2010
7. Congenital infiltrating lipomatosis of the face with ipsilateral hemimegalencephaly, band heterotopia, and hypertrophy of brainstem and cerebellum. *Neuropediatrics* 41(3) 147-50. 2010
8. Nutritional state, maturational delay on electroencephalogram, and developmental outcome in extremely low birth weight infants. *Brain Dev.* 32(8) 613-8. 2010
9. Transiently reduced water diffusion in the corpus callosum in infants with benign partial epilepsy in infancy. *Brain Dev.* 32(7) 564-6. 2010
10. Chronologic changes in neonatal EEG findings in periventricular leukomalacia. *Pediatrics* 124(3) 468-75. 2009
11. Callosal lesions and delirious behavior during febrile illness. *Brain Dev.* 31(2) 158-62. 2009
12. Electroencephalogram and flash visual evoked potentials for detecting periventricular leukomalacia. *Neuropediatrics* 39(4) 226-32. 2008
13. Diffusion-weighted magnetic resonance imaging in infants with periventricular leukomalacia. *Neuropediatrics* 39(4) 233-8. 2008
14. Subacute encephalopathy: clinical features, laboratory data, neuroimaging, and outcomes. *Pediatr Neurol* 38(2) 111-7. 2008
15. A pilot study on cord blood levels of erythropoietin and its relationship to periventricular leukomalacia in preterm infants. *J. Child Neurol.* 23(2) 231-4. 2008
16. Diffusion tensor imaging in infants with basal ganglia-thalamic lesions. *Eur. J. Paediatr Neurol.* 12(5) 412-6. 2008
17. Focal epilepsy resulting from a de novo SCN1A mutation. *Neuropediatrics* 38(5) 253-6. 2007

名 誉 教 授 推 薦 書

渡邊 一功 先生

(健康医療科学部医療貢献学科言語聴覚学専攻)

渡邊一功教授は、平成14年4月、愛知淑徳大学教養教育センター教授として着任され、平成16年4月に医療福祉学部医療貢献学科言語聴覚学専攻教授に就任され、医療貢献学科の専門教育の中で、小児科学、神経科学の分野の教育に尽力されました。

研究者としては、昭和43年3月、名古屋大学大学院医学研究科内科系小児科学専攻博士課程修了と同時に医学博士(名古屋大学 医博第264号)を取得され、昭和43年4月名古屋大学医学部小児科学副手、昭和45年4月愛知県心身障害者コロニー中央病院小児神経科医長、昭和54年4月愛知県心身障害者コロニー中央病院臨床第5部長、昭和55年4月名古屋大学医学部附属病院講師、昭和59年8月名古屋大学医学部小児科学教授、平成10年4月名古屋大学大学院医学研究科健康社会学専攻発育・加齢医学講座小児科学分野教授を歴任され、平成14年4月には名古屋大学名誉教授を授与されました。

この間、小児神経学の分野の研究、臨床に多大な貢献を果たされ、わが国における当該分野の指導者としての立場を一貫して担われて来ました。また、日本小児神経学会、日本てんかん学会、日本臨床神経生理学会、日本小児科学会、日本新生児学会、日本未熟児新生児学会、国際小児神経学会で要職を歴任されて来ました。

教育者としては、名古屋大学医学部、名古屋大学大学院医学研究科では医師を目指す、あるいは小児科学の医学的研究を志す後進の教育に尽力され、本学着任後は、医療分野の教養教育および、小児科学、神経科学の専門家としての立場から、言語聴覚士の養成に貢献されました。小児分野の言語聴覚療法に強い、本学医療貢献学言語聴覚学専攻の特色は渡邊一功教授の尽力に負う所が大であります。

上記により、渡邊一功教授を、本学の定める名誉教授授与の基準、愛知淑徳大学名誉教授規程第2条第3号に該当する者として推薦いたします。